

(別添2)

温室効果ガス削減中期目標に関わる世論調査集計結果(6月調査)

Q1.〔回答票1〕現在、地球温暖化を防止するために、先進各国は温室効果ガス（二酸化炭素やメタンなど）削減の目標値を設定しています。わが国でも、2020年を目標に、その目標値をどう設定するかについて、政府を中心に議論が行われています。あなたは、目標値の設定にあたって、どのような考え方を前提として考えるのが良いと思いますか。あなたが、最もよいと思う項目を一つ、選んでください。
(N=1244)

- 1 (34.4%) 日本を含む先進国が、これまでに出してきた温室効果ガスの総量を地球温暖化を引き起こした「責任」として考えるのが良い。
- 2 (17.6%) 日本は既に技術開発等にかなりの投資をしてきているのだから、これ以上の投資をしても他国に比べて不利な状況にある。これから最先端技術の開発や導入、生産活動にかかる「追加的な費用」が各国で同程度になることを前提に考えるのがよい。
- 3 (31.1%) 世界の国の間で経済的な格差は大きいので対策に投資できる額に大きな差がある。各国のGDP（国内総生産：経済活動の大きさ）や、一人あたりのGDP（国内総生産の一人あたりの大きさ）をもとにして、考えるのがよい。
- 4 (16.9%) わからない

Q2.〔回答票2〕温室効果ガス削減も含め、あなたは、日本は地球温暖化（気候変動）問題にどのような考え方で対応していくべきだと思いますか。あなた自身のお考えに最も近いものを1つ選んでください。(N=1244)

- 1 (2.9%) 地球温暖化（気候変動）は深刻かどうかわからないので、現在やっている以上のことは、何もしなくてもよいと思う。
- 2 (32.4%) 地球温暖化（気候変動）は深刻かどうかに関わらず、世界の他の国も対策をとるので、早めに対応した方が経済成長への影響が少なく済むから、早めに対応をすべきだと思う。
- 3 (8.4%) 地球温暖化（気候変動）は深刻だと思うけれども、対策にかかる投資が他の投資を圧迫するほどの金額になるならば、ある程度温暖化による自然災害などの被害が大きくなっても仕方がないと思う。
- 4 (43.2%) 地球温暖化（気候変動）は深刻だから、対策にかかる投資がどれだけの金額になろうと、温暖化による自然災害などの被害が今以上深刻にならないように、できるかぎり早めに対応をすべきだと思う。
- 5 (13.1%) わからない